

「課題研究」に取り組もう！

1年1組担任 和田好史

大学入試には必ずその大学が掲げるアドミッションポリシーというものがあります。

簡単にいうと「こういう学生を集めたい」という大学のポリシーであり、これに合致する生徒を筆記試験や面接試験、調査書の内容など様々な方法で評価して合格を決定します。

例：大阪大学基礎工学部のアドミッションポリシー

- ・センター試験で課す5教科7科目の学習に加え、特に数学、理科、外国語を高度に修得している人
- ・修学に必要な知識と理解力を有し、物事を多角的に捉え、柔軟な発想から筋道を立てて考えることができる人
- ・科学や技術に深い関心と興味を持ち、新しい分野の開拓に積極的に挑戦する意欲のある人
- ・自分の考えを論理的に説明でき、さまざまな考えの人たちの意見にも耳を傾けて対話ができる人

前任校で担任していたクラスの生徒で、この春に現役で大阪大学の推薦入試に合格した生徒がいました。彼の面接指導も担当しましたが（何回も何回も行いました）少し彼の話をさせてください。

彼は仲間と協力して「課題研究」に取り組み、大学が主催する発表会に積極的に参加し、その過程で大学教員などからアドバイスをもらい、仲間と協力することの大切さや「課題研究」の難しさや楽しさを学んだと言っていました。結果としてコミュニケーション力が身につく、「課題研究」をやっているよかったということを中心に面接でアピールして合格しました。どこの大学でも、ただ、学校の勉強ができるだけの人ではなく、それらを活用した問題の対処法や仲間との協調性、コミュニケーション能力を併せ持った人が求められる傾向にあります。これは社会に出ても全く同じことが言えます。

さて、今春高校に入学した73回生が卒業する年から大学入試が変わりますが、そこで求められる「思考力・判断力・表現力」や「仲間と協働して学ぶ態度」は、まさに「課題研究」に真剣に取り組むことにより身に付く力だと確信しています。学校で習った勉強を主体的に考えて活用する力が問われています。課題研究メソッド（啓林館）の著者 岡本尚也氏の講演会に自主的に参加しましたが、同じことを言われていました。

「課題研究メソッド」は少し難しい部分もありますが、素晴らしくよくできたテキストです。これを用いてまずは丹波市の地域の課題を発見するところから始めましょう。前向きに！頑張ろう！！

課題研究の大まかな流れ

- 1 課題を発見する（自分にとって興味があり、関わりがある課題）
- 2 リサーチクエストを設定する（何故、そういうことが起こるのか？どうしたら防げるか？）
- 3 様々な人と協力して調査（高校、大学の教員など、関わってくれる大人の人に協力を求める）
- 4 課題への解決策の提案（高校生らしい視点で未来につながるように）



今週の「総合」「探究」より…

4月25日（水）第1学年探究 第1回

入学して2週間が経ちましたが、第1学年の探究は今回が初めて。初回ということで、オリエンテーションを行いました。探究を担当した、第2学年主任の辻野彰一教諭、第3学年1組担任の森祥平教諭から、昨年行った活動の報告と探究に向けての心構えについて話がありました。

まず、辻野彰一教諭から生徒たちに『21世紀型スキル』とは何か？という問いが投げかけられ、「コミュニケーション能力」「問題発見能力」「問題解決能力」などがあげられました。（中には「運転技術」という答も。ご迷惑！）昨年は、東北芸術工科大学が主催している全国高等学校デザイン選手権大会（通称デザセン）に出場するために活動しています。身近な問題を解決するために、高校生が自分達の知恵を絞って提案するもので、書類審査を通過したものが本選のポスター発表に進むことができます。残念ながら本選での発表まではいけなかったようですが、「制服の再利用」「シャーペンのケースの無駄をなくすために」など生活の

中で解決すべき課題に向けて取り組んだということでした。「答のないことを考える」「常にアンテナを張っておく」「創造も大事だが、想像はもっと大事」と73回生への激励のことばが続きました。

森祥平教諭からは3月に行われた「地域課題から世界を考える日」で発表された内容について、おさらいするような形でひとつひとつのテーマが紹介されました。丹波の抱える課題と一言と言っても、「少子高齢化」「人口減」と大きなくくりで解決しようとする、的が絞られ切れません。トピックを絞って「空き家をどう活用すればよいのか」「市島の豪雨災害はなぜ起きたのか」など具体的に取り組むことが大切だということでした。また、昨年度の反省点として地域に視点が留まり、世界に繋がっていなかったこと、先行研究を基に進めることができなかったことなどが伝えられました。



4月27日（金）第1学年総合 第3回

24日（火）に聞いた大西伸弘先生の講演のメモを出し合っ、班ごとにまとめました。

創立からの歴史をまとめる人、本校で活躍した人々をまとめる人、それぞれにアイデアを出し合っ一枚の小さなポスターを仕上げています。授業の最後には「柏原高校百年史」の一部（五つのパート）が配られ、連休中にまとめてくるよう指示が出されました。クラス全員の前で、班の代表がプレゼンをする組、班対班で少人数を相手に発表する組と、やり方は違いますが、同じ話を聞いてもまとめ方、発表の仕方に違いがあることに気付いたことでしょう。



5月1日（火）第2学年探究 第3回

前回の分野決定、グループ分けを受けて、5時間目に情報収集の時間をもちました。研究対象の分野について、今回はインターネットを使って、キーワードを検索しています。他の手法として図書館の文献、先輩の論文、新聞記事などが挙げられ、常にアンテナを張っておくことが大切だと指導を受けました。GW中に時間を見つけて、他の手段を使っての資料収集に励んでくれるでしょう。集めた情報を「キーワードマッピング」という手法を使って整理し、6時間目に各グループで、それぞれのアイデアを報告しあう時間をもちました。担当教員のアドバイスを受け、次回からは「リサーチクエスチョン」を設定すべく、さらに探究を続けます。

